

私の「推し」

校長 大沼 敏美

12月の全校集会で、小中高生が選ぶ2023年の漢字は、1位「楽」、2位「推」、3位「恋」となったことを紹介した（ニフティキッズ主催）。ここで2位となった「推」については、調査アンケートでも「大好きな推しに会えたから」「推し活が楽しかったから」といった声が多く寄せられたという。

「推し」とは、他の人に薦めたいと思うほど好感を持っている人物のことをいうわけだが、少なくとも私が高校時代にはなかった言葉である。フリー百科事典『ウィキペディア』によれば、元々はアイドルグループの中で最も好感を持っている人物である推しメンを由来とする言葉で、1980年代のアイドルブームの際に登場したとされている。その後、AKB48の台頭によって広まり、2011年にユーキャンの新語・流行語大賞にノミネートされたことで一気に知られるようになった。国語辞典に掲載されたのは2019年発行の『大辞林』が初めて、2021年に毎日新聞社が行ったアンケートでは、「推し」という言葉を使うと答えたのは過半数となり、「使わないが、意味は分かる」と答えた人を含めると96%を超えたとのことである。コロナ禍の「3密」のように、新語・流行語は生まれては消えていく運命にあるが、この「推し」については時代とともに広く認知され、使われるようになった言葉と言える。そして、今では推しの対象は人だけに限らず、アニメやゲームのキャラクター、動物、食べ物など多岐に渡り、SNSを活用した「推し活」も盛んに行われるようになっている。

私がInstagramでフォローしている著名人は、ハラミちゃん、あいみょん、滝沢カレン、上野水香、佐藤晴美などで、なぜか女性ばかりである（笑）。あいみょんは、吉田拓郎や尾崎豊、スピッツなどを音楽的ルーツとしており、歌詞を重視しているところに惹かれ、よく聴くようになった。滝沢カレンの魅力は何と言っても彼女の発する言葉にある。2年ほど前、入籍した際のインスタでは「記憶をほとんどその日に置いてくる私ですが、出会ったときの季節、景色を今でも思い出せます。それは私の見ている景色をいつもより色とりどりにしてくれる人でした。」と、相手のことを魅力的な言葉で紹介している。バレエダンサーの上野水香は、その華麗で迫力のある演技を一目見て虜になった。彼女は日本人で唯一『ボレロ』を踊ることを許されているダンサーだが、鬼気迫るほどのエネルギーと温かさに満ちた踊りはぜひ一度観ていただきたいと思う。そして、佐藤晴美は二〇二〇年まで活動していたダンス&ボーカルグループE-girlsのメンバーで、現在はファッションモデルとして活躍しており、天童市出身ということで推している。

最後にハラミちゃんについてである。彼女の存在を初めて知ったのはYouTubeでだが、2022年城北祭のゲストに呼んでほしいという声から実行委員から拳がりコンタクトを取ったのだがスケジュールの都合で叶わなかった。ところが、次の年の1月になってハラミちゃんサイドから卒業式サプライズの打診が届いたのである。今

にして思えば、ハラミちゃんはその瞬間、瞬間の‘点’をととても大切にしている人である。

卒業する生徒たちは、コロナ禍で3年間の高校生活を送り、修学旅行も中止に追い込まれた学年ということもあり、まさに渡りに船であった。サプライズを成功させるため裏バージョンの卒業式実施要項を作り、情報はほんの一部の教職員だけにとどめた。サプライズの様子はハラミちゃんの公式チャンネル (harami_piano) で公開されており、すでに再生回数は70万回を超えている。ちなみに、この日の演奏は、『新時代』『YELL』『アメイジング・グレイス』『群青』の4曲で、感謝の言葉を述べた生徒会長は「ハラミちゃんのピアノは演奏だけのはずなのに、頭の中で歌詞が再生される」と称えた。

ハラミちゃんは幼少期からピアノが得意で音楽大学へ進んだのだが、周囲のレベルの高さに圧倒され、ピアノの道を諦めIT企業に就職した。しかし、働き過ぎが原因で家に引きこもるようになり2度目の挫折を経験した。そんなとき、会社の友人が気晴らしにストリートピアノに誘い、その様子をYouTubeに公開したところバズったという経歴を持つ。そのような自身の経験をもとに卒業生に向けてエールを贈ってくださった。要点だけ記すと、

- 好き、好きを重ねるとそれは武器になる
- 点と点は必ずつながる（今の頑張りは未来につながる）

の2つだろうか。ピアノ演奏はもとより、未来志向のメッセージは卒業生の背中を力強く押してくれたように感じた。卒業式終了後、保護者からいただいたメールにこんな言葉があった。

「心温まる校長先生の式辞、卒業生代表の答辞、そしてハラミちゃんのサプライズ演奏、素晴らしい卒業式でした。最後のホームルームでも、担任の先生から感動的な思い出いっぱいの映像を用意していただき、コロナ禍でも楽しんで学校生活を送っていたのだとあらためて感じました。どれもこれもコロナ禍だからこそそのもの。だからこそその卒業式でした。感動しました。」

ハラミちゃんは、今やメディアでも引っ張りだこだが、卒業式の1か月後から47都道府県ピアノツアーを敢行している。山形は12月に川西町フレンドリープラザで開催され、そこでは本校でのサプライズについても話題にくださった。会場にお花を届けたのだが、それへの感謝の言葉もいただくなど、気さくで誠実な人柄にますます好きになった。ちなみにこのピアノツアーは、会場毎に異なるセットリストでの演奏なのだが、山形会場で聴いた曲での一推しは『愛燦燦』（作詞作曲 小椋佳）だった。演奏を聴きながら、はらはらはらりと涙がこぼれ落ち、次のフレーズが頭の中でリフレインした。この歌詞もまた未来志向である。

雨 漣々と この身に落ちて / わずかばかりの運の悪さを恨んだりして / 人は哀しい 哀しいものですね

...

それでも未来たちは 人待ち顔して微笑む / 人生って 嬉しいものですね